

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 光

中村 賢一

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

本年7月には、東京オリンピックが開催されることになっていますが、この祭典は人間の英知と変異を繰り返すCOVID-19との闘いともなりそうです。過去を振り返りますと、人間は幾度となく感染症と闘い、それを克服してきた歴史をもちます。今回も、積み重ねた経験と英知によってCOVID-19を克服する道が一日も早く拓かれることを望みます。

今回は、本誌の歴史を少し辿ってみることにします。本誌が創刊されたのは2004年11月であり、2020年12月までに17巻、373編の論文が掲載されました。発行回数は、2012年までは年3回でしたが、2013年からは年4回となりました。原著論文を対象として、論文の障害領域別比率を1期(2004~2012年)と2期(2013~2020年)に分けて調べてみますと、一貫して論文数が多いのは失語・高次脳機能障害領域であり、1期は40%、2期は34%を占めます。次いで発達障害領域が多く、1期は21%、2期は20%でした。近年増加しているのは摂食嚥下障害領域の論文数であり、1期は6%にとどまっていたのですが、2期は19%に昇っています。発声発語障害は1期10%・2期12%、聴覚障害は1期10%・2期1%、吃音は1期1%・2期3%でした。言語聴覚障害学が発展するには、すべての障害領域の研究が活発化することが重要であり、各領域の研究のさらなる進展が期待されます。

今号には、原著論文として摂食嚥下障害、認知症、養成教育に関する貴重な研究結果が報告されています。症例報告では、高次脳機能障害を呈したCOVID-19症例や摂食嚥下障害を呈した前縦帯骨化症例に対する言語聴覚療法のあり方が検討されています。また、災害リハビリテーションおよび地域包括ケアにおける聴覚障害対応の実態調査結果、発語失行と口部顔面失行の関係を検討した短報や第11回優秀論文賞を受賞した秋枝克昌氏の随筆も掲載されています。いずれも興味深い論文であり、今後もこのように幅広い領域から読み応えのある論文が投稿されることを期待します。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第18巻 第1号) 2021年3月15日発行[年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行]

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 2,200円(本体2,000円+税10%)

2021年年間購読料: 8,250円(4冊, 税込, 送料発売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2021, Printed in Japan

制作・発売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)